

〔編集後記〕

明治25年、慶應義塾に体育会という組織が誕生してから100年が経過した。100年前には我が国にはまだ学生スポーツという概念は殆どなかった。あったのは剣術、弓術、柔術など武士道の技を磨くための鍛練であって、スポーツといえるものではなかった。

福澤先生は3回にわたる欧米の視察から、教育におけるスポーツの重要性を認識し、慶應義塾にいち早くスポーツを導入しその振興に努められた。「先ず獣身を成し、しかる後に人心を養う」という先生の言葉が如実にそれを物語っている。

さらに嘗ての名塾長でありご自身も庭球部の選手として活躍された小泉信三先生の「全て練習は不可能を可能にする」という言葉は庭球部のみでなく、体育会38部全員が常に心している言葉となっている。

爾来1世紀に及ぶ慶應義塾体育会各部の活動は、近代日本における学生スポーツの嚆矢として、その指導的役割を担い果して来た。言い換えるならば義塾体育会100年の歴史は、近代日本学生スポーツの歴史であるといえよう。

本書は慶應義塾体育会の100年を記念して、その歴史的な概要をまとめたものである。各部から資料を提供して頂いたが、各部はそれぞれ古い歴史を持ち、それぞれの部がこの本以上の厚みのある本が出来程の資料を持っているので、それを全部収録することは到底不可能である。紙数に制約もあり、従って各部の詳細な歴史はそれぞれの部の年誌に任せることとし、本書では各部の本当に貴重な写真等に絞って年表概要と共に掲載するに留めた。そのため相当数の写真等を割愛せざるを得なかったことについて各部のご了承をお願いしたい。

この記念誌『若き血燃ゆ』は、単に過去の栄光を懐かしむためのものではない。この本がこれからの現役部員諸君の栄養源、即ち先輩達の活躍を知り、それを超えようとする糧となり、発奮資料として活用して頂ければ幸いである。そして体育会創立200年には更に貴重な多くの資料がつけ加えられることを願って止まない。

終わりに本書の作成にあたり、ご多忙な中を原稿を執筆して下さいました小山早大総長をはじめとする諸先生方および資料をご提供下された各部OB会並びに編集委員諸氏に衷心より謝意を申し上げます。

主事 宮部美充